



## 2019年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2018年10月31日

上場会社名 株式会社 JEUGIA

上場取引所 東

コード番号 9826 URL <https://www.jeugia.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長兼社長執行役員営業本部長 (氏名) 西村 昌史

問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼執行役員経営管理部長 (氏名) 山根 篤

TEL 075-255-1566

四半期報告書提出予定日 2018年11月12日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2019年3月期第2四半期の連結業績(2018年4月1日～2018年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第2四半期	3,706	2.1	24	22.5	25	65.0	4	148.9
2018年3月期第2四半期	3,787	1.8	19	52.7	15	60.7	1	86.3

(注) 包括利益 2019年3月期第2四半期 13百万円 (74.3%) 2018年3月期第2四半期 52百万円 (354.1%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第2四半期	5.27	
2018年3月期第2四半期	2.12	

(注) 当社は、2017年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、「1株当たり四半期純利益」を算定しております。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年3月期第2四半期	4,995	2,257	45.2
2018年3月期	5,130	2,268	44.2

(参考) 自己資本 2019年3月期第2四半期 2,257百万円 2018年3月期 2,268百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期		0.00		30.00	30.00
2019年3月期		0.00			
2019年3月期(予想)				30.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2019年3月期の連結業績予想(2018年4月1日～2019年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,450	0.7	80	47.1	78	36.3	30		36.48

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

## 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P6「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2019年3月期2Q	827,250 株	2018年3月期	827,250 株
------------	-----------	----------	-----------

期末自己株式数

2019年3月期2Q	4,836 株	2018年3月期	4,796 株
------------	---------	----------	---------

期中平均株式数(四半期累計)

2019年3月期2Q	822,419 株	2018年3月期2Q	822,674 株
------------	-----------	------------	-----------

(注)当社は、2017年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、「期末発行済株式数」、「期末自己株式数」及び「期中平均株式数」を算定しております。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

## 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料のP2「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(日付の表示方法の変更)

「2019年3月期 第1四半期決算短信」より日付の表示方法を和暦表示から西暦表示に変更しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	4
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	4
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	6
(追加情報)	6
(セグメント情報等)	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、所得環境の改善などを背景に緩やかな回復基調が続くものの、大型台風や豪雨、地震災害などの影響や、人手不足の深刻化や米国の金融政策や保護主義的な通商政策による世界経済への影響が懸念され、先行き不透明な状況となっております。

このような状況下で当社グループは、8月1日に創業120周年を迎えました。9月には、創業のきっかけとなりました京都岡崎の地において、記念コンサートやハンドメイド作家総勢100以上出店のハンドメイドマーケットを開催いたしました。

当第2四半期連結累計期間には、教室運営力を強化し収益性の向上を図り、レッスン環境を充実させる為、滋賀県大津市の音楽教室とカルチャー教室を近隣に移転統合し、新設オープンいたしました。また、京都府久世郡のショッピングセンター内の店舗では、会員数の増加を図る為に音楽教室を増床し、リニューアルいたしました。

一方で、川崎市のカルチャー教室を8月の契約期間終了をもって閉鎖いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高は37億6百万円（前年同期比2.1%減）、営業利益は商品粗利率の上昇に加え、減価償却費や固定費の減少で24百万円（同22.5%増）、経常利益は25百万円（同65.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は4百万円（同148.9%増）となりました。

セグメント別の状況は、次のとおりであります。

### （音楽事業部門）

鍵盤楽器は、ピアノ、電子ピアノは販売台数が減少したものの単価の上昇で前年同期並みとなりました。電子オルガンは、販売台数、単価ともに大幅な減少となりました。管弦楽器は、春の需要シーズン向けのセールにより店頭販売が堅調に推移いたしましたが、学校など公共機関向けの販売が減少いたしました。ギター関連は、厳しい販売状況が続いておりますが、利益率が改善したことで粗利益は前年同期並みとなりました。AVソフトは、コンサートやイベント会場での販売を積極的に行ないましたが、CDの店頭販売が減少し減収となりました。

音楽教室は、中高生の個人レッスン会員が減少したものの、子供のグループレッスンや50～60代向けのレッスンが増加したことや、利益率の改善などにより堅調に推移いたしました。

この結果、売上高は23億24百万円（前年同期比3.4%減）、セグメント利益は1億13百万円（同4.1%減）となりました。

### （カルチャー事業部門）

地域特性を加味した講座開発を強化し、新規会員の獲得に注力するとともに既存会員の継続率を高めました。

会員数は、6月に発生した大阪府北部地震の影響や、大型台風によるレッスン中止の影響が一部にあったものの、既存店の会員数が概ね前年同期を上回り、前期に新規出店した教室も寄与し堅調に推移いたしました。また、移転統合による新規出店教室も順調に推移いたしました。

この結果、売上高は13億82百万円（前年同期比0.1%増）、セグメント利益は64百万円（同34.1%増）となりました。

## （2）財政状態に関する説明

### （資産）

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は21億73百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億46百万円減少いたしました。これは主に現金及び預金が99百万円、受取手形及び売掛金が16百万円、商品が14百万円それぞれ減少したことによるものであります。固定資産は28億21百万円となり、前連結会計年度末に比べ11百万円増加いたしました。これは主に投資有価証券が13百万円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は、49億95百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億35百万円減少いたしました。

### （負債）

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は20億49百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億13百万円減少いたしました。これは主に支払手形及び買掛金が49百万円、短期借入金が30百万円それぞれ減少したことによるものであります。固定負債は6億88百万円となり、前連結会計年度末に比べ10百万円減少いたしました。これは主に退職給付に係る負債が5百万円、長期借入金が3百万円それぞれ減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は、27億37百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億24百万円減少いたしました。

### （純資産）

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は22億57百万円となり、前連結会計年度末に比べ11百万円減少いたしました。これは主に四半期純利益が4百万円、剰余金の配当が24百万円となったことと、その他有価証券評価差額金が9百万円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は45.2%（前連結会計年度末は44.2%）となりました。

## （3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年3月期の業績予想につきましては、本日公表いたしました「2019年3月期第2四半期の連結業績予想と実績値との差異及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	994,020	894,703
受取手形及び売掛金	187,916	171,012
商品	715,588	701,371
その他	423,308	407,390
貸倒引当金	△150	△510
流動資産合計	2,320,683	2,173,967
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	773,661	763,749
土地	738,114	738,114
その他(純額)	57,455	59,507
有形固定資産合計	1,569,230	1,561,370
無形固定資産	40,803	38,388
投資その他の資産		
投資有価証券	406,857	420,114
差入保証金	630,305	632,552
その他	195,476	197,265
貸倒引当金	△32,650	△28,270
投資その他の資産合計	1,199,990	1,221,662
固定資産合計	2,810,024	2,821,421
資産合計	5,130,708	4,995,389
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	464,115	414,124
短期借入金	404,000	374,000
1年内返済予定の長期借入金	567,747	559,502
引当金	48,000	48,000
その他	678,923	653,927
流動負債合計	2,162,785	2,049,553
固定負債		
長期借入金	499,547	495,571
退職給付に係る負債	122,363	116,631
その他	77,288	76,087
固定負債合計	699,199	688,290
負債合計	2,861,984	2,737,844
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	957,000	957,000
資本剰余金	985,352	985,352
利益剰余金	206,479	186,141
自己株式	△7,071	△7,124
株主資本合計	2,141,761	2,121,369
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	126,962	136,176
その他の包括利益累計額合計	126,962	136,176
純資産合計	2,268,723	2,257,545
負債純資産合計	5,130,708	4,995,389

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
売上高	3,787,394	3,706,273
売上原価	2,137,140	2,075,357
売上総利益	1,650,253	1,630,916
販売費及び一般管理費	1,630,508	1,606,726
営業利益	19,745	24,189
営業外収益		
受取利息及び配当金	2,782	2,822
受取手数料	1,151	516
貸倒引当金戻入額	—	4,400
その他	857	1,540
営業外収益合計	4,791	9,279
営業外費用		
支払利息	8,990	7,864
その他	91	96
営業外費用合計	9,082	7,960
経常利益	15,454	25,507
特別利益		
固定資産売却益	4,278	1,446
投資有価証券売却益	6,759	—
補助金収入	2,000	—
特別利益合計	13,037	1,446
特別損失		
固定資産除却損	9,414	282
災害による損失	—	5,413
特別損失合計	9,414	5,695
税金等調整前四半期純利益	19,078	21,258
法人税等	17,336	16,922
四半期純利益	1,742	4,335
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,742	4,335

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
四半期純利益	1,742	4,335
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	50,914	9,213
その他の包括利益合計	50,914	9,213
四半期包括利益	52,656	13,549
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	52,656	13,549

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示しております。



(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	音楽事業	カルチャー 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,407,119	1,380,275	3,787,394	—	3,787,394
セグメント間の内部売上高又は振替高	4,550	111	4,661	△4,661	—
計	2,411,669	1,380,386	3,792,055	△4,661	3,787,394
セグメント利益	118,168	48,068	166,236	△146,491	19,745

(注) 1. セグメント利益の調整額△146,491千円は、全社費用等であり、主に各報告セグメントに帰属しない本社事務管理部門の一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	音楽事業	カルチャー 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,324,141	1,382,132	3,706,273	—	3,706,273
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,675	—	1,675	△1,675	—
計	2,325,816	1,382,132	3,707,948	△1,675	3,706,273
セグメント利益	113,365	64,483	177,848	△153,659	24,189

(注) 1. セグメント利益の調整額△153,659千円は、全社費用等であり、主に各報告セグメントに帰属しない本社事務管理部門の一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。